

学校から美術館に鑑賞を申し込むにはどうすればいいですか？

① ふくやま美術館までお電話ください。

TEL : 084-932-2345 (火～日曜の8:30～17:00)

② 団体観覧申込票にご記入のうえ、メールまたはFAXにて提出してください。

メール : art@city.fukuyama.hiroshima.jp FAX : 084-932-2347



←団体観覧申込票

- ふくやま美術館ホームページ（下記URL）よりダウンロードしてください。

<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/>

左側の **団体観覧のご案内** をクリック



- 学校名、観覧日、人数、学年、ガイドの有無など必要事項を記入し、メールまたはFAXにて提出してください。その後、内容確認の連絡をさせていただきます。
- 申込み完了後、当日の日程、鑑賞方法（内容）を確認するため、美術館担当者が電話で事前にお尋ねをいたします。

③ 「観覧料減免申請書」を美術館に提出してください。

- 小・中学校の先生が授業の一環として観覧する場合、事前に学校長から申請書を提出していただくと観覧料免除となります。（高校生以下の観覧料は無料）
- 申請書は、ふくやま美術館ホームページよりダウンロードしてください。

※展示室内の状況(混雑時)などによっては、ワークシートをつかった別の鑑賞を提案させていただくこともあります。
※お申し込み日程については、別紙の団体受入可能日をご覧ください。
※受入については、既に他団体の対応予約が入っている場合や、行事などによって日程を調整させていただく場合もあります。
※鑑賞方法については、『10歳の君へ ようこそ美術館プロジェクト』と、この鑑賞プログラムとは異なります。

◎ふくやま美術館

〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号
TEL 084-932-2345 FAX 084-932-2347
<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/>

休館日 月曜日(祝休日の場合は開館、その翌日は休館)、年末年始
開館時間 9:30～17:00

観覧料 所蔵品展／一般310円(250円) ※()内は有料20名以上の団体料金
※特別展の観覧料は別に定めます。
※特別展・所蔵品展ともに高校生以下無料。

交通アクセス

- ・山陽自動車道 福山東インターより車で20分
- ・JR福山駅福山城口(北口)から西へ400m

駐車場

- ・市営駐車場(68台)
 - ・バス駐車場(5台)
- ※申込み時にお伝えください。



来館にあたってのご注意

- ・筆記具は「鉛筆」を使ってください。ノートなどに書き込む場合は、壁や展示台にあてて書き込まないようにしてください。
- ・撮影は、受付に申し出て「腕章」を着用いただきますと可能です。ただし、フラッシュ、三脚は使用できません。
- ・事前に「作品にはさわらない」ことを児童・生徒にお伝えください。

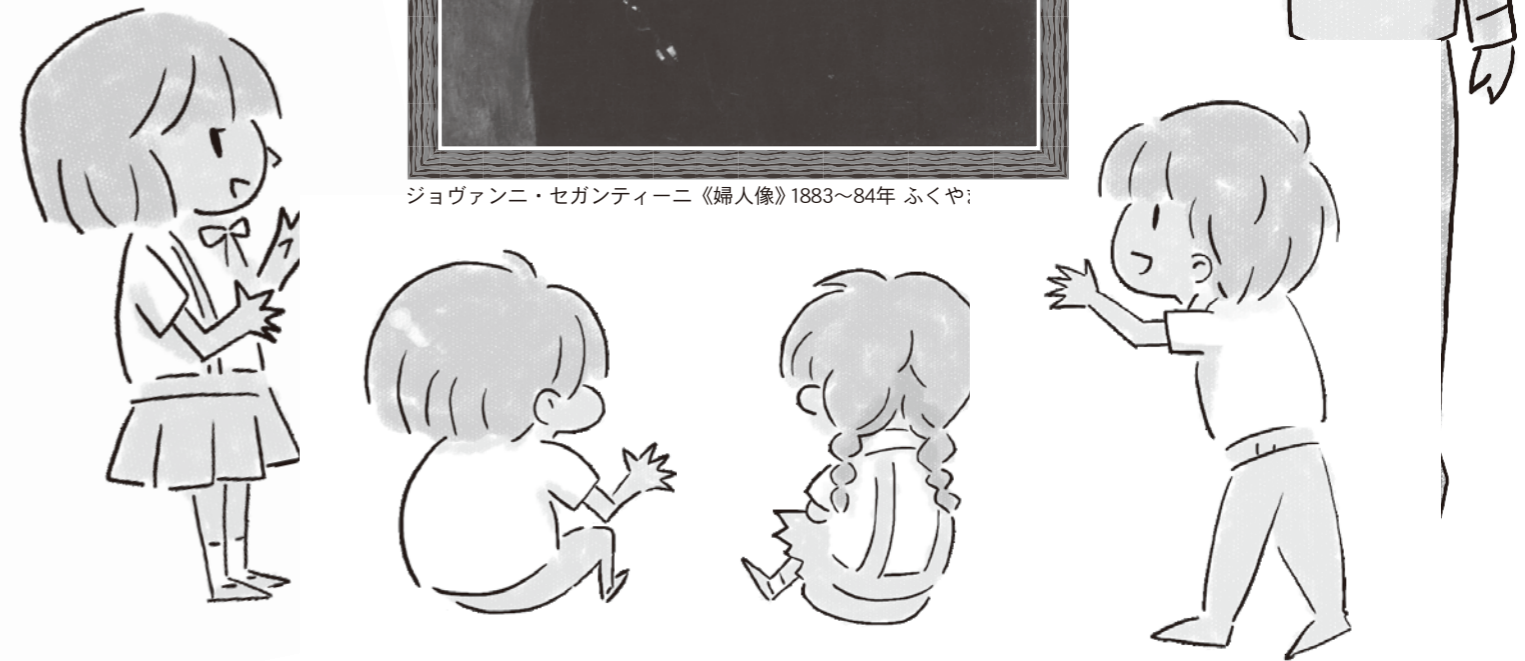
2026年度 ふくやま美術館 美術鑑賞推進事業

たのしい鑑賞プログラム

〈申込のご案内〉



ジョヴァンニ・セガンティーニ《婦人像》1883～84年 ふくやま





美術館で美術作品を鑑賞しましょう！

この鑑賞プログラムは、児童・生徒が作品を楽しく鑑賞する中で、「美術作品と向き合う心をはぐくんで欲しい」と願い、実施するものです。

学習指導要領の目標には、「造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」ことと明記されています。また鑑賞の指導については、「地域の美術館などを利用したり、連帯を図ったりする」ことが推奨されています。

作品との素敵な出会いが、児童・生徒に新たな「発見」や「感動体験」をもたらし、貴重な心の財産となるでしょう。



美術館には、どんな鑑賞プログラムがありますか？

1. 対話型の鑑賞（観察力・コミュニケーション力を高めるコース）

児童・生徒と、学芸員・ボランティアが対話を通じて、ひとつの作品をじっくり鑑賞していく方法です。この鑑賞方法では、児童・生徒がそれぞれ感じたことを考えて、言葉にすることを促します。作品を細かく見る観察力や思考力のほか、コミュニケーション能力の向上も図ることができます。

※実施時は、10名程度のグループに分かれて鑑賞します。

2. ガイド形式の鑑賞（知識・教養を深めるコース）

展示されている作品やその作家に関する説明を、学芸員やボランティアが行います。作品が制作された背景や、作者の人生を知ったうえで鑑賞すると、作品の異なる一面が見えてくることでしょう。児童・生徒の知識を深め、また造形の新たなレパートリーを増やしてくれる良い機会となるでしょう。

■実施場所：企画展示室、常設展示室、書道美術館

■対象：小学生・中学生

■所要時間：約30分～60分

3. 施設見学（美術館の役割を学ぶコース）

美術館に関する短時間の説明と、施設（バックヤード等）のご案内をします。

■実施場所：美術館・書道美術館 ■対象：小学生・中学生 ■所要時間：約30分

4. 屋外モニュメント

屋外を巡りながら、ふくやま美術館周辺のモニュメントを紹介します。身近なアートを発見するプログラムです。

■実施場所：屋外 ■対象：小学生・中学生 ■所要時間：約30分

※雨天の場合は、実施場所が変更になることもあります。



いつ美術館に行くのがいいですか？

案① 季節ごとに、テーマの違う様々な特別展があります。目的に合わせてお選びください。

2026年度 特別展

期 間	内 容
春 4月11日(土) - 6月7日(日) 前期：5月6日(水・休)まで 後期：5月8日(金)から	小林徳三郎 福山が生んだ異才の洋画家、その豊かな軌跡 小林徳三郎（1884-1949）は、大正から昭和期にかけて活躍した福山出身の洋画家です。画業初期には、前衛美術家集団・フウウザン会に参加し、その後は春陽会を中心に、小魚を描いた静物画や自身のこともたちなど身近な情景を題材とした作品を出品し、高い評価を得ました。何気ない日常を洒落な描線と素朴な色彩で捉えた絵画は、今も私たちの心に響きます。本展は、300点を越える作品・資料で小林徳三郎の豊かな軌跡を辿る初の大回顧展です。
夏 7月11日(土) - 9月23日(水・祝)	「オバケ？」展 古今東西、さまざまな呼び名で存在してきたオバケ。会いたくはないのに、ちょっと会ってみたい。その名を聞いただけでフクフクする「オバケ」をキーワードに楽しみ尽くす展覧会です。オバケを探究し作品化する「オバケ研究所」が設立されるほか、「オバケ屋敷」、「オバケ湯」、オバケに変身する「オバケ工場」など、親子で楽しむ企画も盛りだくさん。見て、感じて、知って、なる。新しさが満載の体験型展覧会です。
秋 10月3日(土) - 12月13日(日)	千住博展 - 静寂の光、水の鼓動 雄大なスケールの滝や崖の作品で知られる日本画家・千住博（1958）は、ニューヨークを制作拠点に国際的に活躍しています。本展では街並風景を描いた初期の作品をはじめ、代名詞である「ウォーターフォール」シリーズや、江戸時代の製地とコラボレーションし、伝統と革新を融合させた作品などを厳選してご紹介します。崇高な自然と真摯に対峙し、地球のエネルギーや生命力をさまざまに描き出す千住博の世界を心ゆくまで堪能ください。
冬 2027年 1月24日(日) - 3月22日(月・休)	新刀・東西の巨匠 虎徹と助広 江戸時代の刀剣文化を代表する二大名工に長曾祢虎徹や津田越前守助広が挙げられます。都市形成に伴い、二大作刀地となった江戸と大坂。そこに刀剣需要と文化が育まれ、虎徹は江戸で、助広は大坂で活躍しました。本展では、虎徹および助広の重要文化財を含む代表的作例を通観・比較しながら、両者の作風の成立とその変遷を紹介します。さらに、刀剣を通して浮かび上がる東西における刀剣文化の差異と共通性を立体的に捉え、近世刀剣史の一端を紐解きます。

案② 所蔵品展も合わせて鑑賞ください。

所蔵品展では、ピカソやマルク・シャガールをはじめ、日本近代を代表する画家・岸田劉生が愛娘を描いた《麗子十六歳之像》、イタリア未来派のジャコモ・バッラ《輪を持つ女の子》といった色彩豊かな作品を年間を通してご覧いただけます。

児童・生徒が成長する過程で、繰り返し見ることのできる美術館の所蔵品は、美術鑑賞教育に好適といえるでしょう。

※都合により展示されていない作品もあります。

2026年度 所蔵品展

期 間	内 容
《 春季 》 4月3日(金) - 6月28日(日)	生きもののせかい 動物は人々の暮らしや想像力と結びつき身近なモチーフとして、絵画や工芸・彫刻など、さまざまな形で繰り返し表現されてきました。当館コレクションの作品に息づく動物たちの、多彩な表現をお楽しみください。
《 夏季 》 7月3日(金) - 9月23日(水・祝)	物語る美術 神話や説話、古典文学に着想を得た作品や歴史上の人物を題材にした絵画・工芸・書・彫刻など、多彩な分野から紹介します。作家が描き出す物語の世界に触れ、思いを巡らせつつ作品をご覧ください。
《 秋季 》 9月26日(土) - 12月13日(日)	絵本と芸術家 人生で最初に出会う絵画ともいえる絵本。その挿絵には、専門の絵本作家のみならず、画壇の中心で活躍している芸術家によるものも少なくありません。絵本の挿絵と作家の作品を並べて展示し、その関係性を探ります。
《 冬季 》 2027年1月2日(土) - 3月28日(日)	ウチらのパワー！ 描かれる女性に、描く女性、さまざまな立場で、女性は芸術と関わってきました。どのような関係が築かれてきたのか、またそうした作品を未来にどのように伝えていくのか。「女性」をテーマに所蔵品を見直します。

※特別展・所蔵品展の会期・内容につきましては、都合により、急遽変更をさせていただく場合もあります。最新情報はふくやま美術館ホームページなどでご確認ください。